

Title	征使水路記：遣米使節航行圖並に解説書
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1952
Jtitle	史学 Vol.25, No.3 (1952.) ,p.96(351)- 96(351)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520000-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

註(12) しかし、彼はその時日の算定をしなす (De Civ. Dei, XVIII, 53) cf. H. Scholz: op. cit., pp. 154~164.

(13) 異教徒のローマに於ても少數の精銳が國家を救つてゐることを彼は強調する (Ib., V, 12)°

(本論は文部省科學研究費交付金による研究の一部である)

征使水路記

—遣米使節航行圖並に解説書—

幕末の遣米使節一行に關する日記や關係書は相當數知られて居るが、使節の歸朝した翌月板行された本書は、おそらく使節關係の出版物の最も早いものの一つと思はれる。

本書は美濃半載大の横本で、表紙に「征使水路記 全」と題箋があり、見返しと本文七枚は薄烏子紙を用ひた薄冊であるが、袋綴でなく、二枚の紙端を糊で貼合せた珍らしい製本のものである。何故斯様な手数を要する製本をなしたか判断に苦しむが、或は採色を施こす際の失敗を考慮して、版木の小さいものを使用し無駄を少くした爲ではないだらうか。

見返し表は二本の罫で圍ひ、其間を淡紅色に塗つた美しいもので、中央に日旭旗をメインマストに掲げ、船尾に米國旗を掲げた、ホーハッタン號と覺しき汽帆船の航行圖を配し、上部に

征使水路記と横書し、左右に萬延元庚申年、冬十月新鑄と縦書して居る。見返し裏には東西半球圖を掲げ、その上に地球略圖と横書して居る。地圖は亞細亞歐羅巴亞非利加南北亞美利駕澳大利亞の六大州をそれぞれ青紅黃紫綠薄茶色に塗り別け、航路を點線で示して居り、一目にして使節が東廻りで世界一週せる事を明示して居る。

本文は七枚より成り、二・三・五・六・七枚目の各表に部分圖を掲げ、各圖の前に、使節の寄港地の簡單な地誌的解説が記されて居り、その地は十六ヶ所に及んで居る。圖は日本——パナマ、アスピノール——ニウヨーク、同上——ワシントン、ニウヨーク——アフリカ南方、同上——日本間の航路を示し、寄行地の發着日等を記入して居るが、日本歸着の日は記入されて居ない。本書の著者、發行所等の記載は不明であるが、繪具での丁寧な採色や前述の製本の手数等から見て、おそらく發行部数は小部数であつたらうと思はれる。(河北展生記)